

九州から遠征するも3年連続リタイアと苦杯をなめていた大津康孝／吉村修二組だが、見事、リベンジを果たしてFG-1クラスを制した。



## 九州から遠征の大津康孝ランサーが、僅差のバトルを制す!

**中** 四国地区戦ラリーの中でも、すっかり名物ラリーとして定着している、でっぺんラリーが2019年、夏真っ盛り7月20日に行われた。

今回は、6.1km、8.2kmの2本のダートを2回ずつ走る、計4本のSSによる2セッション制の1DAYラリーとして開催された。クルーはまだ夜が明け切らない早朝にレッキに臨んだ後、HQの置かれた大川村白滝の里をスタート。午後5時頃に同じ白滝の里でゴールという設定だ。

天候は残念ながら前日にまとまった雨が降り、路面はセミウェットでスタート。ラリー当日も午後から雨が降り出したため、結局太陽を望むことなく、ラリーは進行した。

8台が参加したFG-1クラスは、まずSS1

でランサー・エボリューションIIIをドライブする地元高知の山口英明／土居喜嗣組が、九州大分から遠征してきた大津康孝／吉村修二組を4.7秒差に下して首位に立つ。SS2では大津組がベストを獲り、山口組に1.2秒差まで詰め寄るが、SS1の再走となったSS3では、雨で悪化した路面を山口組が1秒落ちて走ってセカンドベストと健闘。一方の大津組は山口組から7.1秒遅れ、再び両者の差は広がってしまう。

しかし最終のSS4で首位を快走していた山口組は、何とマシントラブルが発生して大きくタイムロスを喫してしまい、勝利から見放されてしまう。これで勝負は大津組と、SS3でベストを奪い、大津組との差を一気に詰めた長江修平／中岡和歌組の一騎打ちになるが、この最終

SSでも連続ベストと気迫の走りを見せた長江組に対して、大津組も踏ん張って0.7秒差の2位でフィニッシュ。結果、僅か0.2秒という僅差で大津組が逃げ切った。

ここ数年、ラリーの参戦はこのでっぺんラリー1本に絞っている大津選手は、「ここは3年連続でリタイアしていたので、完走して優勝までできて嬉しいです」とまずは安堵の表情。「自分にとっては年イチのラリーなので、ペース配分などは考えずに、1本1本プッシュして走りました。レッキより路面も荒れて厳しかったで

1.一時はFG-2クラス首位を奪った川本圭祐／伊藤洋幸組だが逆転を許し、2位。2.セクション1の遅れが響いたFG-1長江修平／中岡和好組は僅差の2位に甘んじた。3. FG-3で2位入賞は近畿から遠征の川村貴宣／和田翼組。4.九州から遠征の日高重貴／吉田賢吾組はFG-4で2位入賞。5.セクション2で怒涛の追い上げを見せた松岡竜也／縄田幸裕組がFG-4クラスで優勝。







6. 併催のTRD RALLY CUPのCUP2で2位獲得の奥本直人／谷崎巧真組。7. TRD RALLY CUPのCUP1で2位の山本雄紀／葛西大浄組。8. 最終SSでトラブル発生時のFG-1山口英明／土居喜嗣組は無念の3位に終わる。9. 関西から遠征の関根康生／走出芽美組はFG-2で3位。10. 中四国戦ではお馴染みの一台、FG-2高田修／園田裕康組は最終SSでスーパーベストを叩き出してシーズン初勝利。11. TRD RALLY CUPのCUP1優勝は柴村浩之／古本舞桜組ヴィッツ。12. 全日本の賞禄を見せて快勝のFG-3松原久／廣瀬香織組。13. FCクラスは中部から遠征の竜田健／兼松由奈組が優勝を飾った。14. TRD RALLY CUPのCUP2優勝は吉原将大／佐野元秀組86。15. FG-2で4位の野村浩司／横山英治組。16. FG-1で5位の西隆司／丸山晃助組。17. FG-1で4位の阪本章／八尋俊一組。18. FG-3で3位の金森稔／柴田貴之組。19. FG-1クラス表彰の皆さん。20. FG-2表彰の皆さん。21. FC表彰の皆さん。22. TRD RALLY CUP・CUP2表彰の皆さん。23. TRD RALLY CUP・CUP1表彰の皆さん。24. FG-3表彰の皆さん。25. FG-4表彰の皆さん。



すけど、ダートを走れるだけで楽しいので(笑)、あまり気になりませんでした」とタフな一戦を振り返った。

一方、ゴール目前で勝利を逃した山口選手は、

「たぶんどライブシャフトのト  
ラブルだと思います」と無念の表情。「今回は、自分のクルマがコースと路面に合っていましたね。クルマが軽いので、雨もラフな路面もあまり気

にならないんですよ。勝つまでは、やっぱり、このクルマ乗り続けます」とリベンジを誓っていた。

FG-2クラスでは、関東からこのシリーズに遠征する高田修／園田裕康組ミラージュがSS1、SS2と連続ベストを奪うが、SS3では2018チャンピオンの川本圭祐／園田裕康組インテグラがぶっちぎりのベストを

叩き出して高田組を一気に逆転する。このクラスも最終SSがスリリングな展開となったが、ここはスピードを取り戻した高田組が川本組を7秒差に下して再逆転、シーズン初勝利を飾った。「SS3はペースを落とし過ぎましたが、SS4のような速度の乗る道は得意なので頑張って踏みました。今年はオフにボディ補強して、足回りも見直したら、クルマがガンガン前に行ってくれるようになりました。前回は前走車のホコリでタイム残せなかったんですが、手応えはあったんで結果が出て嬉しいです」と高田選手は、してやったりの表情で振り返った。

今回のラリー、エボIIIやCJ4Aミラージュといった「旧車」が、まだまだ元気なところを見せてくれる一戦となったようだ。

## あの、ピエール北川選手が、グラベルラリーに初挑戦!

SUPER GTやスーパーフォーミュラのレース実況で知られるアナウンサー、ピエール北川氏が、今回の一戦でグラベルラリーにデビューした。2018年にJAF中部近畿ラリー選手権でラリーデビューを飾ったピエール選手が、多忙なスケジュールの合間を縫ってチョイスしたのはサバイバルラリーとして知られる今回のてっぺんラリー。しかし徐々にグラベルに慣れたピエール選手はSS2ではベストタイムも奪う快走を見せた。ラリー参戦の模様は、JAFモータースポーツWEB内のJAFモータースポーツニュースダイジェスト第46回で紹介しているのでぜひ、ご覧いただきたい。

